

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年8月30日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2870200629		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア灘		
所在地	兵庫県神戸市灘区灘北通3丁目1-15 (電話)078-871-7227		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年8月6日	評価確定日	平成19年10月26日

【情報提供票より】 (19年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	37530		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	23人	常勤17人, 非常勤6人, 常勤換算20.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1~3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	40,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	0円	昼食	0円
	夕食	円	おやつ	0円
	または1日当たり		1,500円	

### (4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	27名	男性	1名	女性	26名
要介護1	4	要介護2	8		
要介護3	8	要介護4	7		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 86歳	最低	67歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸海星病院 ・ 小田歯科医院
---------	-----------------

### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

イエスキリストの「愛と奉仕の精神」を理念に掲げ、ご利用者が住み慣れた地域の中で「今まで通りに誇りを持った暮らし」が出来る家庭的な環境が整えられ、職員にも浸透している。ホーム長・職員は、日々の生活の中でご利用者を「主人公」とし、ご利用者の趣味・特技等を活かし、自然にホーム内での役割が決まってきた。日々のふれあいの中で職員と日常生活を支えあい、一人ひとり自主性をもってホーム内の生活を楽しく過ごされている。ホームは地域住民との交流も多く、遠方からの施設見学者も歓迎している。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価結果を会議で報告し、各階のフロアー長を中心にサービスの質向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	ホーム長は外部評価の意義を全スタッフに伝え、各階で職員が日々のサービスについて評価を行い、管理者がまとめて自己評価は作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	2ヶ月に1回の運営推進会議を実施している。会議ではビデオの映像・行事の写真などでご利用者の生活・行事風景などを分かり易く説明している。運営推進会議の中で近隣の方の情報によりデイサービスに繋げる等、地域貢献も行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族の訪問時、職員は必ず顔を合わせてご本人の状況報告を行うと共に、家族の意見・要望・苦情を聴取するよう徹底している。定期的に家族会・懇親会を開催し家族同士の話し合いの場を設定し、家族からの希望・要望・苦情などを前向きにとらえサービスの充実に向けての取り組みがなされている。また家族会前に意見を書面で聞くようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会に加入し、地域の住民との親交も深く、夕涼み会・餅つき等、施設の行事への参加を呼びかけ、地域との交流が盛んに行われている。近隣保育園との交流の機会も多くご利用者の楽しみになっている。ご利用者は日々の外出時に近隣の方と挨拶を交わし、外来者の訪問も歓迎している。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より「イエスキリストの愛と奉仕の精神」を基に地域との交流を織り込んだ理念に添って、ご利用者が地域の中で誇りを持って安心して暮らしていける支援がなされている。見学者を受け入れ理念の説明とご利用者の生活場面を見学する機会を持っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の見やすい場所に理念の掲示があり、朝礼で理念を唱和し、日々の業務の中で確認しながら理念の共有が出来ている。生活のお手伝いをする・穏やかに見守る・何気ない声かけ・自然に寄り添う等、職員の姿に理念の浸透が感じられる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の住民との親交も深く、夕涼み会・餅つきなど施設の行事への参加を呼びかけ、地域との交流が盛んに行われている。近隣保育園との交流の機会も多くご利用者の楽しみの一つになっている。ご利用者は日々の外出時に近隣の方と挨拶を交わし、外来者の訪問も歓迎している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価結果を会議で報告し、各階のフロア長を中心にサービスの質向上に向けて取り組んでいる。ホーム長は外部評価の意義を全スタッフに伝え、各階で職員が日々のサービスについて評価を行い、管理者がまとめて自己評価を作成している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議を実施している。会議ではビデオの映像・行事の写真などでご利用者の生活・行事風景などを分かりやすく説明している。運営推進会議の中で、近隣の方の情報によりデイサービスに繋げる等、地域貢献も行われている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議の出席以外にも相談・助言・指導・意見交換が頻繁に行われている。また市の担当者からの助言・指導依頼も多くあり、神戸市の職員の紹介で見学や研修も受けている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会に来られる家族は多いが、職員は必ず顔を合わせてご本人の状況報告を行い、報告内容は、日誌に記載している。定期的に発行している「月刊オリンピア灘」の中に外出風景・催し・ホーム内での暮らしぶりが写真で紹介されている。また一人ひとりの状況がわかるように個別アルバムを作成している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族会・懇親会を開催し家族同士の話し合いの場を設定している。家族からの希望・要望・苦情などを前向きに捉え、サービスの充実に向けての取り組みがなされている。また家族会前に意見を書面で聞くようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット毎の不必要な職員の配置換えは行わず、職員とご利用者との馴染みの関係が継続するよう固定化しているが、フロアーの職員はスタッフ自身の成長の為、フロアー間での異動は実施している。夜勤・緊急時対応等全フロアーの把握が必要となるため日勤で時々異動して勤務している。異動を行う際は利用者・家族への説明は行っている。</p>		
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の受講・法人内部研修計画に沿って全スタッフ対象の研修を定期的実施し「働きながらの学び」の機会がある。毎月のカリキュラムによる若手リーダー育成研修がありスタッフの成長が期待できる。また、リーダー会には総施設長が参加し、現場で解決できない内容などを決着し即決していくことが出来るようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>宅老所・全国ネットワークに加入している。他のグループホームとの意見交換会など、交流の機会を持っている。同法人のグループホーム・特養との交流を持ち意見交換が出来る体制がある。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用前に自宅・入院院先などを訪問し本人、家族から利用者の心身の状況を把握すると共に家族の意向を聞き取り、事前見学後不安なく入居できるよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「生活の主人公はご利用者」の理念に沿って、職員は生活を支援している。家族からの情報・日常的に収集した入居者の趣味・特技等を活かし、自然にホーム内での役割が決まってきた。日々のふれあいの中で職員と日常生活を支え合い、一人ひとり自主性をもってホーム内の生活を楽しく過ごしている。また、キッチンアイランド式に設計されていて、多くのご利用者職員と一緒に調理できるようになっており、ご利用者に料理の指導をしていただきながら食事作りを楽しんでいる。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の会話や、家族からの情報だけでなく、職員が日々の生活の中での気づきにより、一人ひとりの持てる力を最大限に活かして生活できるよう支援している。希望・要望の表出が難しくなっている方の意向の把握には、職員は一人ひとりのシグナルを敏感に感じ取り、利用者の意向の把握に努めている。職員は非言語コミュニケーションのトレーニングを行っている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を導入し詳細なアセスメントを行い、介護計画が作成されている。介護計画作成は家族の要望を十分聴取し、スタッフによる意見交換を行い計画作成されている。また、計画に沿った実践が行われ、定期的に評価されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回見直しを実施し、毎月ケースカンファレンスで利用者個々の計画見直しを実施している。カンファレンスは毎週実施しており、細かな見直しを実施している。毎月の見直しを積み重ねて3ヶ月に1回の見直しにつなげている。毎週のカンファレンスは全体を見て変化がないか検討している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ご利用者・家族の状況により通院同行・旅行への同行を行っている。医療連携が取れており、緊急時の対応への配慮も行き届いている。</p>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>施設の協力病院の紹介をしているが、本人・家族の意向により利用前のかかりつけ医の継続受診も可能である。かかりつけ医との連携を密にし、常勤で看護師も配置している等、ご利用者の健康管理に十分な体制が出来ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。家族へのご利用者の容態に関する連絡は個別に書面を作成しファイルしている。最後まで看取り、葬儀もホーム内で行い、他のご利用者で普段表情に乏しかった方も表情・言葉を出された。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー保護や個人情報保護については、研修を行い職員への徹底を図っている。利用者に対する言葉かけは丁寧でやさしく、さりげない細やかな心遣いが感じられ、ご利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーに配慮されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々のスケジュールを決めず、ご利用者一人ひとりの状態に合わせ希望に添った生活が送れる支援を行っている。スーパー・コンビニ・薬局など個々の希望するところへの外出支援が行われている。茶道・生け花・書道・園芸などの趣味を活かした自由で自主的な生活の営みがある。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>3食の食事作りは、献立作り、食材の買い物、調理、後片付けまで、自主的に役割が決まっており、利用者主体で職員と協力しながら食事作りを行っている。会話のある和やかで家庭的な食事風景の中で管理者・職員と一緒に食事をしている。職員はさりげなく注意を払いながら、状況を観察している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>家庭的な浴室でゆっくりと寛げるように、入浴日・時間は決めず利用者の希望に添った朝の入浴・夜間入浴の支援も行われている。入浴中は見守りにより安全面と羞恥心への配慮も心がけている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時の利用者・家族からのアセスメント・入所後の日々の生活の中で収集した情報を基に、利用者一人ひとりの趣味・楽しみごと・得意なこと等を把握し、力量に応じて日常生活の中でそれらが発揮できる場面作りが行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	決まったスケジュールはないが散歩・買い物などご利用者の希望・体調・気分に合わせて自由に外出されている。一人での外出希望者には本人に気づかれない様に職員が見守り、自主性を損なわない配慮がなされている。電車・バスを利用しての遠出も行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は常に利用者の行動を見守り、日中は玄関・エレベーターの施錠はせず自由に入出入りが出来るようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署訓練を行っている。近隣の協力も得られる状況になってきている。夜間想定訓練も実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各フロアで献立をご利用者とともに作成、ホーム長がチェック、定期的に法人の栄養士にカロリー・栄養バランスのチェックを受けている。利用者の嗜好や嚥下状態などを把握し、個別に対応している。水分量・食事はチェック表で把握している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の窓、天窓から自然光が差し込む共用空間の壁面に飾られた絵画・季節を感じさせる生け花・飾りつけ等、五感刺激への細やかな配慮が感じられる。室内は、換気・温度調節が行き届き、居心地のよい空間の中でご利用者の生き生きとした笑顔が印象的である。廊下・フロアーにソファ・椅子を置き自由に過せる空間が用意されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス・日用品が持ち込まれ、思い出の写真を飾り、安心して過せる個性豊かな居室作りができています。また、各居室・リビング・トイレ・食堂にコールシステムが設置され安全面にも配慮が見られる。ご利用者の好みで畳の居室も用意されている。		

は、重点項目。